

令和7年度 社会福祉法人 協愛福祉会 施設自己評価表

(保育理念)

Happy+Natural
Happy+challenge

(保育目標)

げんきな子 やさしい子
がんばる子 ゆたかな子

A：よくできている

B：わりとできている

C：一部改善が必要

D：改善しなければならない

	内容	前年評価	今年評価	現状・課題
保育 目標 について	(1)保育士一人一人が、協愛福祉会の保育理念、保育目標を理解している	B	B	・法人理念の言葉は理解しているが、いざ子ども達を目の前に保育をしていると相反する所がある。クレドを活用し、理解したつもりにならないようにしていきたい。
	(2)子ども一人一人の主体性を大切にされた保育をしている	C	B	
	(3)すべての子どもについて一人一人の存在と、その人種を尊重している	B	A	
保育 について	(1)保育計画に基づき、子ども一人一人の発達の姿や興味を把握して、年間計画、月のカリキュラム、週案を立てている	A	A	・未満児と以上児との関わりが多い1年だった。この背景には、行きやすい雰囲気だった影響が大きい。その効果は関わりだけではなく、保育環境にも良い流れに繋がった。次年度も風通しの良い職場環境を整え、子ども達にとって最適な環境で保育ができるようにしていきたい。
	(2)3歳未満児は、現在の姿を理解し、一人一人に保育計画を立てている	B	C	
	(3)素材・用具を適切に使用している	C	B	
	(4)環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫している	C	B	
	(5)職員間で子どもへの理解を深め、お互いの考えを十分に理解したうえで、保育を行っている	B	B	
	(6)1日の流れ(デイリープログラム等)は現行でよい	B	B	
食育 について	(1)食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせて食育計画を立てている	C	B	・食育計画はあるが、子どもの興味・関心にあわせたタイムリーな食育はあまりできていない。次年度は、柔軟に対応できるように給食職員との連携を上手くとったり、食育計画をしっかりと活用していきたい。
	(2)栄養士、保育士が連携し、会議等で意見を交わしながらより良い給食になるよう努めている	B	B	
	(3)アレルギー疾患等の子どもに対し医師の指導の下、保護者との連携を図り適切な対応を行っている	A	A	
役員 研修 構成	(1)職員の仕事や役割が明確であり、それぞれの仕事を責任を持って行っている	B	B	・予め研修計画を立てたり、役割を明確化にすることで、昨年度よりもより多くの園内外の研修を受講することができた。次年度も継続していきけるようにしていく。
	(2)危機管理意識を持ち、緊急時に対応できる体制が整えられている	C	B	
	(3)園内外の研修は計画を立て実行している	B	A	

		前年評価	今年評価	
保護者支援・情報	(1)保護者に対して、丁寧な言葉遣いと、気持ちの良い対応を心掛けている	B	B	・保護者との良好な関係が築けるように意識しているが、自園は若い職員が多い為、経験に伴う専門的な視点で支援を行うことが難しいことが度々ある。専門職では変わらない為、子どもをまんやかに考えた支援が少しずつでもできるようにしていく。
	(2)保護者に子どもの伸びているところや課題を伝え、連携をとっている	B	B	
	(3)様々な園行事を通して保護者との良好な関係を築こうとしている	A	A	
	(4)園だより、ドキュメンテーション、きつずノート、ホームページ等を通して、保育内容や子どもの姿や保護者への情報を発信している	C	C	
	(5)子どもの個人記録は、個人情報保護法に基づいて管理している	A	A	
	(6)職員に、園内で知り得た事柄に対しての守秘義務を周知徹底している	A	B	
開かれた保育園	(1)小学校と連携し、情報交換をする機会を待つ	A	A	・今年度初めて小学校との連携で交流できた。次年度も引き続き交流ができるように、担当者を決めて連携がとれる体制を整えていく。
	(2)気になる子どもの対応について、外部の専門機関と連携をとりながら対応している	A	A	
子育て支援	(1)地域で子育てをしている親子の交流の場となるように努めている	C	C	・子育て支援2年目になったが、認知度が低い。活動内容の見直しと、未就園児に限定するのではなく、在園児も対象に子育て支援を行っていきたい。
	(2)子どもの心身の発達や育児不安について気軽に相談できるように努めている	B	B	
	(3)園生活の子どもの様子を地域にも発信している	C	C	

総合的な現状と課題

・今年度は未満児と以上児の交流が例年以上に多かった。この背景には職員同士の関係が良好だったことが大きい。保育には悩みや不安がつきものである為、職員が共感し合い、助け合う体制が必要である。今年度はこの部分ができていたように感じる。次年度も継続できるようにマネジメントを強化していく。

・保育の質の向上には助け合う体制だけでなく、切磋琢磨する環境も必要であると考え。よって、今の保育に満足するのではなく、園外への視察や研修等を通して知識を吸収し、自園に落とし込んでいけるようにしていきたい。さらには、配慮を要する子ども達も増加している為、より一人ひとりが“その子らしく”過ごせるように体制を整えていく。

園名 認定こども園 ひなたの風 氏名 岡本 満江